日本画 専攻

設置クラス	本　　科 高卒生	月曜～金曜	9：30~16：30
	専　　科 高3生	火曜～金曜	17：30~20：30　日曜　9：30~18：00
	高 2 専 科 高2生	火曜～金曜	17：30~20：30　日曜　9：30~18：00
	日 曜 専 科 高3生（遠方から通塾）	日曜	9：30~18：00
	高２日曜専科 高2生	日曜	9：30~18：00

自分の可能性と向き合う。

「日本画」という言葉から、皆さんはどんなイメージを描きますか？ 日本の風土や自然観、心情や感性。日本画の顔料や墨、和紙といった素材。皆さんが何に興味を持ち、どんな絵を描いていくのか…。日本画はそんなさまざまな可能性に応えてくれます。日本画専攻では、物をよく観察することを大切にし、基礎から応用へと段階的に身につけていきます。自分の可能性と向き合う１年は、一生の記憶に残る充実したものとなるでしょう。

指導スタッフ

ベーシックな指導から各自の個性を生かしたゼミまで、さまざまなカリキュラムを実現するスタッフです。
過去10年間で東京藝大33名、愛知芸大71名の合格者を輩出しています。

●レギュラー講師

稲垣 洋介　東京藝大大学院日本画修
植田 浩　愛知芸大大学院日本画修
岡村 苑子　愛知芸大大学院日本画修
唐木 唯衣　愛知芸大日本画在籍
木曽 浩太　愛知芸大大学院油画修
篠﨑 和真　愛知芸大大学院日本画修
成田 吉毅　多摩美大大学院日本画修

●チューター

春日井 陽飛　愛知芸大日本画在籍
道本 小雪　愛知芸大日本画在籍
山口 大空　愛知芸大油画卒

（2025年12月現在・50音順）

年間カリキュラム	本科	専科・高２専科	日曜専科・高2日曜専科
	春期講習		
1学期 ●入塾ガイダンス ●第１回全統共通テスト模試 ●全体保護者会	［絵画表現Ⅰ］ ～基礎造形力強化～ ●石膏デッサン ●静物着彩 ●人物課題（土曜ゼミ） ●各種ゼミ（構図、計測、絵具など） ●屋外スケッチ授業 ●東山動植物園スケッチ ●日本画制作（岩絵具、和紙使用） ●1学期末コンクール（石膏デッサン、静物着彩）	［絵画表現Ⅰ］ ～基礎造形力強化～ ●制作用具の紹介と扱い方 ●静物デッサン ●石膏デッサン ●静物着彩 ●人物課題（土曜ゼミ） ●各種ゼミ（構図、計測、絵具など） ●屋外スケッチ授業 ●日本画制作（岩絵具、和紙使用）	
●第２回全統共通テスト模試	夏期講習		
2学期 ●保護者会（三者面談） ●塾生作品展 ●大学入学共通テスト出願 ●愛知芸大公開実技模試 ●第３回全統共通テスト模試 ●全統プレ共通テスト	［絵画表現Ⅱ］～絵画表現力の強化～ ●石膏デッサン ●静物着彩 ●人物課題（土曜ゼミ） ●東京藝大公開実技模試（二次対応） ●生徒がモチーフを考える静物着彩 ●総合型選抜・学校推薦型選抜対策（個別指導） ●屋外スケッチ授業 ●デイキャンプ ●一人一卓静物着彩 ●新宿校本科との合同コンクール（石膏デッサン） ●2学期末コンクール（石膏デッサン、静物着彩）	［絵画表現Ⅱ］～絵画表現力の強化～ ●石膏デッサン ●静物着彩 ●人物課題（土曜ゼミ） ●東京藝大公開実技模試（二次対応）※ ●総合型選抜・学校推薦型選抜対策（個別指導） ●屋外スケッチ授業 ●新宿校専科との合同コンクール※（静物着彩） ※は専科・高2専科のみ	
	冬期講習		
3学期 ●大学入学共通テスト ●修了会	［志望校別対策］ ～絵で表現することを深める～ 入試に向けて、それぞれの志望大学に応じた課題の対策を行います。入試本番を間近に控え実践力を強化します。		
	直前講習		

石膏デッサン

ゼミやレクチャーを導入し、確実にレベルアップできるカリキュラムで授業を行います。

静物着彩

多種多様なモチーフを取りそろえており、各大学出題傾向に合わせたさまざまな課題に対応します。

人物課題

人物着彩やヌードクロッキーゼミなど、人物モデルを描く課題も数多く行っています。

東京藝大公開実技模試

新宿校実施の公開模試に授業内で参加します。全国区での自分の実力を把握できる機会です。

デイキャンプ

本科では毎年、授業としてデイキャンプを行っています。仲間との絆を深め、受験に臨みます。

自宅学習課題

塾での授業以外に、自宅学習課題にも取り組んでいます。日頃の積み重ねが合格につながります。

日本画　本科

今年から初めて芸大･美大にチャレンジする初心者から、よりハイレベルな大学をめざす経験者まで、一人ひとりの個性や実力に応じたカリキュラムを行います。観察力と描写力から生まれる「写生力」を身につけることを目標として、石膏デッサンや静物着彩などの基本的な課題から、ゼミや屋外スケッチ、自分たちでモチーフを考える特別課題など幅広いカリキュラムを通して学んでいきます。それらのベーシックな力を、定期的に行われる一人一卓静物着彩やコンクールを通して確認していきましょう。

日本画　専科・高２専科

高3生および高2生を対象としています。1学期は観察力を身につけること、そして絵具などの道具の扱い方を学んでいきます。2学期は日本画受験で出題頻度の高い石膏デッサン、静物着彩を中心に、見えている世界をどのように画面で表現するかを学びます。また実技模試を通して実戦的なアプローチも習得していきます。

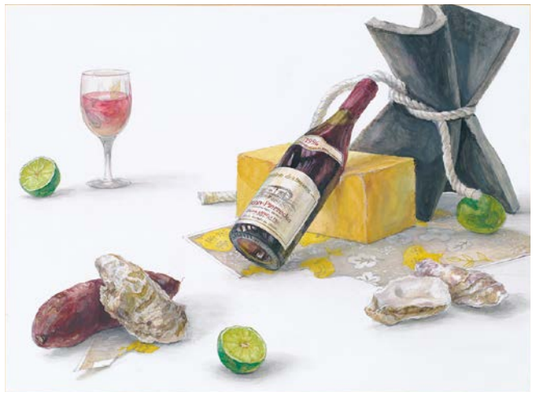
日本画　日曜専科・高２日曜専科

主に専科に通塾できない高3生および高2生を対象としています。授業は、写生の基礎となる観察力を学び、また観察で得た情報を素直に表現する姿勢を身につけます。静物デッサン、石膏デッサン、静物着彩をバランスよく制作し、それぞれの課題のポイントを基礎からじっくり学んでいきます。

1. 作者はもともと視野が広く、モチーフの雰囲気や光を感じ取る能力に優れていました。ただ、描写をしなくてもある程度雰囲気が出てしまうことで失敗することもよくありました。この作品ではその問題に向き合い、描写をじっくりしたうえで自然な空間と柔らかい光を表現できています。豊かな作品と言えるでしょう。［本科生］

2. ガラスの繊細さと、立体としての重量感や形態感が両立して描かれている力作です。良いグレイの色味を選択することによって、透明感を損なわずに積極的に描けています。葉の見え方の差や、土の表現なども大らかに捉えられているので、繊細なモチーフとの響き合いがより美しく見えてくる魅力的な一枚です。［本科生］

3. 光の印象が爽やかで軽やかに描かれているところがこの絵の魅力です。中心のモチーフから目に飛び込んで、奥へ抜けさせる空間と、そこから手前のモチーフに誘導させて行く螺旋状の視線誘導の構図は効果的です。物の実感や存在感、細部の描写が弱くなる傾向がある作者ですが、この作品では丁寧な描写を心掛けて取り組むことができました。［本科生］



4. 実感のある描写が持ち味の作者で、構図や台の平面性、構造感や空間表現、光線の状況、絵の主役である瓶を中心とした画面の見やすさなど安定した実技力を感じられる作品です。このように画面全体に意識を注力していきながら、今後はより個々のモチーフ描写の精度を高めていけば、かなり高いレベルの作品を描くことができるでしょう。［本科生］

5

6

7

8 卓上を囲い水を張るという工夫した設定がおもしろい作品です。水の中の世界をしっかり観察し描くことで実像の存在感の説得力が増し、状況同士を比較し描き分けることが空間的な広がりにつながっています。手前にある百合の状況が弱いですが、形の美しさや丁寧な形態の観察が魅力になっています。［本科生］

9 土曜ゼミの人物実力強化課題です。デッサンを重視して的確なデッサン力で捉えられており質感表現は絵具でうまく描写されています。壁面奥の空間意識がもう少しほしいのと、手に当たっている光線が膝上面の光線と明るさが一致してくればより自然に見えるでしょう。［本科生］

5. 構成の巧みさが目を引きます。明るい色と暗い色を効果的にぶつけて画面にリズムを生み出しています。作者は少し変わった組み方を試すことが多いですが、それ故に失敗も経験してきました。それでも挑戦し続ける姿勢が素晴らしく、そんな作者だからこそつかみ得た作品だといえます。［本科生］

6. 遠景へ抜けていく距離感はもう少しほしいところですが、剥製を取り巻く空間がゆったりと魅力的に表現されている作品です。モチーフを組む際に、個々での魅力だけでなく複数が組み合わさることによる質や色味のぶつかり、シルエットの美しさなどにもこだわりを感じられます。［本科生］

7. 作者は空間意識に優れ、自然な捉え方ができる反面、踏み込みが物足りないことがしばしばありました。似て非なるポリプロピレンの袋を描き分けるためにより深く観察し、特徴の違いを具現化することをきっかけにしっかりとした仕事・完成度を画面にもたらすことに成功しています。［本科生］

合格者からのメッセージ

野尻　桃加さん
日本画本科
名古屋経済大学市邨高校出身

入試再現作品

合格　東京藝術大学　日本画専攻

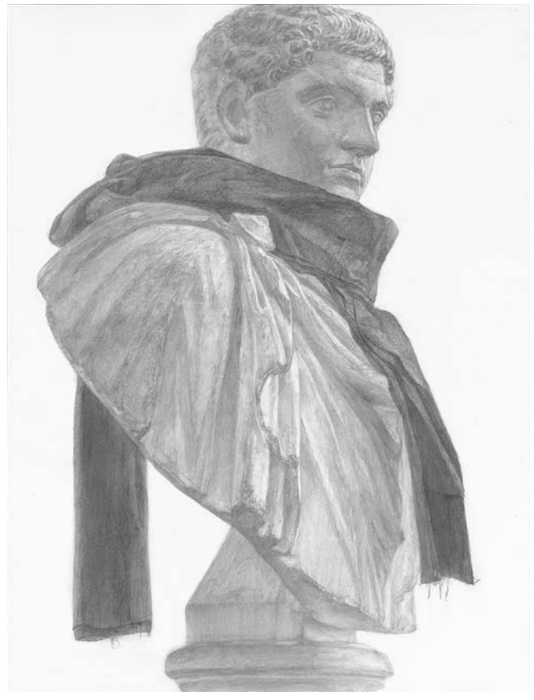
正直、授業内で描いた絵はうまくいかないことがほとんどで、成功体験というものがあまりなかったという実感があります。周りの塾生に圧倒されるばかりで、何度もあきらめそうになりました。それでも本番で実力以上のものを発揮でき、合格することができました。これから藝大をめざす人、今めざしている人、本当に何度も挫けそうになりますが、あきらめないで地道に取り組んでほしいです。応援しています。

石倉　多瑛さん
日本画本科
旭丘高校出身

入試再現作品

合格　愛知県立芸術大学　日本画専攻
京都芸術大学　日本画コース

河合塾は多くの生徒がいるので、常にライバルとなる人たちとともに高めあえる環境が良かったです。一つひとつの作品に全力を出しきること、指摘されたことは次にしっかり修正することが着実な実力UPにつながると思います。私は完成イメージを描き出す前につくれていたときに成功することが多かったので、受験直前は特に意識していました。体調管理をしっかりして、休まず塾に通うことも大切です。

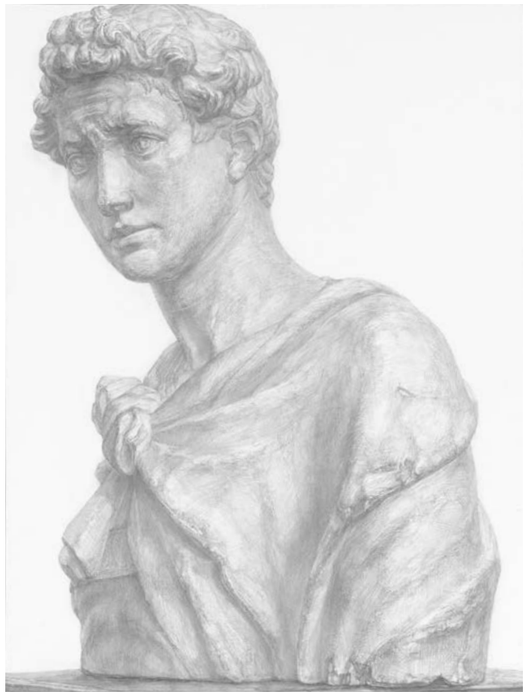


1. 夏期講習の作品です。夏まで作者は地道に「描く」ことに取り組んできました。4月の時点ではあまり器用とは言えなかった作者ですが、そこから一つひとつ頭で考え、理解し、手を使って試し、失敗し、また描くという地道な繰り返しを嫌な顔せず行ってきました。それが実ることで実感を出せた素晴らしい作品です。元々はとても感覚が良い作者ですが、そこに、明度のコントロールやこすりの技術、形を合わせるための技術、光を理解して完成をイメージする力、そしてそれを表現する描写力。これらが総合的に育っていることで、このゲタを描くことができたと言えます。［本科生］

2. 順光らしい白さや石膏の質感が特徴的なデッサンです。作者は作品のイメージを大切にする人です。イメージにそぐわないのであれば無理に暗さや手数を入れることはしません。絵はただ真面目にたくさん手を動かしていれば報われるというほど単純なものではありません。それよりも絵としてどうあるべきかを第一に考えられるところが作者の長所と言えます。ただし、浅く終わらないようにするには相応の描写力が必要になります。最近では自宅課題の枚数も重ね、力をつけてきています。このままさらに伸ばして、イメージをより表現しきった作品が生まれてくることを期待します。［本科生］

3. ヘルメスは難易度が高く、明暗の設定も形の印象を合わせるのも難しい像です。この作品はヘルメスの動きや胸の丸みのらしさ、空間の大きな前後感と小さな前後感の両立、それらが高いレベルで描けています。今でこそ高い実技力を持つ作者ですが、失敗もたくさん経験してきました。視野が狭くなり描写が似てしまったり、形が狂ったり、色が似てしまったり……。そんな経験をしながらも、作者はそれをどう解決すれば良いかを地道に考え、試してきたのを講師も見てきました。着彩ではまだうまくいかないこともありますが、デッサンを解決してきた経験を持つ作者ならば必ず解決します。［本科生］

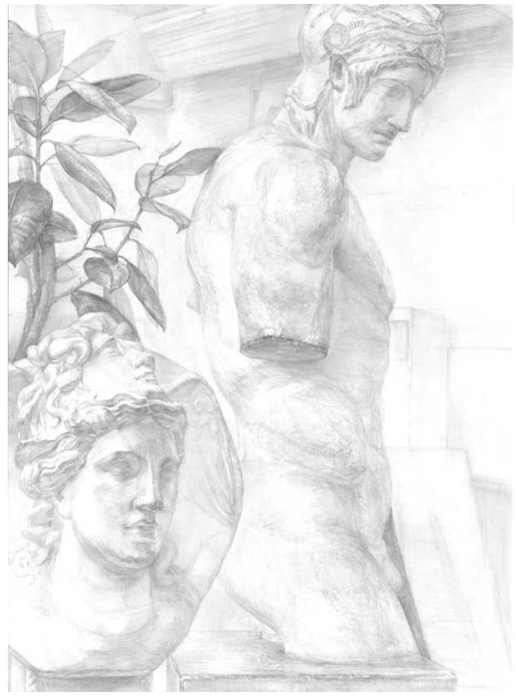
4. 作者は2024年度、実技経験がほとんどない状態でスタートしました。入塾前の無料体験で描いた作品が人生で初めてのデッサンだったと記憶しています。そこから1年4ヶ月でこの作品を描くまでに成長しました。絵を良くするために形が違っていれば直す、暗さが足りなければ足す、描写が足りなければ描写する。言葉にすれば単純ですが、そんな単純なことでもさまざまな思念が邪魔をしてなかなか実行できないことがあります。しかし作者は成長のためにやった方が良いことは躊躇せずやります。そんなこと当たり前でしょと言わんばかりにケロっとやってのけるところが作者の強みです。［本科生］



5. この位置から見たジョルジョは胸の張りが顔や首より手前にあることを表現するのが難しいですが、申し分なく描けています。そうした大きな前後だけでなく、細部に目をやるとまわり込みにいたるまで徹底して小さな前後の位置関係も描いていることがわかります。また、目線を含めた動きの印象も格好良く、総じて高水準なデッサンです。作者は元々優れた感覚を持っていて、高い観察力に基づく実感のある描写ができる人です。しかしそれだけに頼って描くのではなく、考えて描くことも放棄しませんでした。現状に甘んじることのない姿勢が作者の実力を支える要因となっています。［本科生］

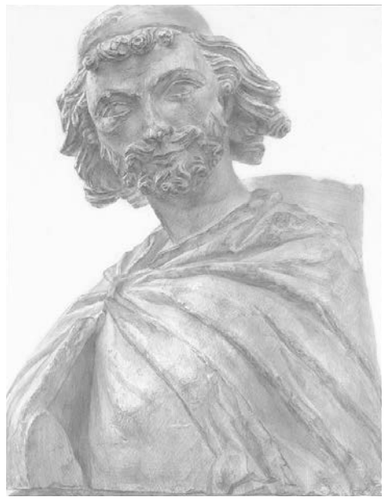
6. 描写スピードが早いとは言えない作者ですが、それはモチーフをしっかり観察し理解しようとしているからだとも言えます。実際、一筆ごとにヴァルールが的確に合っていき、完成に向かって絵ができあがっていきます。実技を勉強している人の多くが苦労することの一つに、手数をたくさん入れているもののバランスの良い見え方ができないことがあげられますが、作者はすでにその点をクリアしていると言えるでしょう。ただ、この作品は試験時間よりも長く描いているため実感がありますが、試験時間になったときに、見え方だけでなくそこに実感が込められるかが今後のテーマになると思います。［本科生］

7. 映像的なピントの合わせ方から立体表現と質感描写まで、メリハリの利いた着地ができている快作です。圧迫感と解放感を対比する演出が功を成しています。遠景を見せるという自身の成功パターンも確立されつつあります。素直にイメージを実現する力が作者の強みです。なんとなく描いてしまわずに、いかに狙いを持って画面を構成ができるかが重要です。そのうえで、真摯に目の前のモチーフと向き合っていることが伝わります。見いだした成功イメージが、観察に基づいた魅力を強固にする見事な作品に仕上がっています。［本科生］



8. 観葉植物と石膏像の対比を軸に実感を込めた仕事がなされています。コントラストの明快さを大切にしながら触覚的にマルスの肩回りを味わうように観察し表現する確かな力を感じます。像単体ではなく組み合わせ・背景をつける判断をしたとき、絵画としてどうあるべきか思案しながら制作を進めていくことになります。左右で壁面の明度の在り方をコントロールすることで固有色のメリハリを利かせつつアトリエ内の大きな広がりを感じさせることに成功しています。じっくりと描く対象と向き合う中で最初に感じたイメージを計画や構想として維持し続けることは易しいことではありません。作者の積み上げてきたことの結実を感じる作品になりました。［本科生］

1. 作者は、抑揚のある生き生きとした表現が持ち味です。ですが同時に彩度が高くなりすぎたり、鉛筆の表現が似ることがありました。このデッサンでは作者の持ち味の抑揚のある表現がありながら、明るい場面の形態をしっかり描くことで質の幅が生まれています。そのきっかけになった一枚と言えるでしょう。［専科生］



2. 高3生の作品としては安定した高い実技力を感じられる作品です。調子の組み立てから細部の描写に至るまで細心の注意を払って描かれています。今後、より描写の精度を高めていくことで、さらにレベルの高い作品を描けるようになることでしょう。［専科生］

3. 卓上にモチーフが置かれていること・立体として構造を画面に反映させること、的確に仕事がなされています。画面左手のドラセナは状況がわかりづらいですが自然なまなざしと確かな力を感じます。この先、受動的にならず課題ごとに取り組むテーマを持って描写力や表現力を研鑽していくことで、自身が納得のできる昇華した作品づくりができるでしょう。［専科生］

4. モチーフに派手さがなくセットや描写などかなり具体的にイメージして描いていく必要がありますが、その難しさを感じさせない魅力がある作品です。ペットボトルの透明感に対して、テープの少し鈍い透明感など実感のある表現ができています。りんごや薪にきれいさだけでなく実感のある描写ができるとより良い一枚になるでしょう。［専科生］

合格者からのメッセージ

多田 みなみさん
日本画専科
旭丘高校出身

現役合格
東京藝術大学　日本画専攻

入試再現作品

現役生は時間がないので、短時間で習得することが大切だと思います。河合塾の参考作品を模写したり、どんな色使いで描いているとか、色の組み合わせとか、短い時間で伸びるように頑張って情報収集をしました。自分なりに考えて、自分なりに答えを出すことが大切だと思います。ずっと現役合格をめざしており、周りの人たちが喜んでくれたことがとてもうれしかったです。本当にありがとうございました。

古岡 麻依さん
日本画本科
岩倉総合高校出身

入試再現作品

合格
金沢美術工芸大学　日本画専攻
名古屋芸術大学　美術領域

私は高３の秋に入塾し、後れをとったスタートを切りましたが、一浪を経て、大きく変わることができました。一番の変化は考える力がついたことです。高校生の頃は一生懸命目の前のものを描くことだけを考えていましたが、河合塾で枚数を重ねていくたび、良いところも悪いところも考えられるようになりました。なんとなく日々を過ごすのではなく、メリハリをもって生活すれば、結果はついてくると思います。

ゼミ1:スケッチ授業

光、風、温度を五感で感じ、スケッチブック片手に絵になる景色や物を探し描くスケッチ授業は、
アトリエでの制作だけでは気づけない自分の感覚があることを気づかせてくれます。

ゼミ2:日本画制作

日本画画材である岩絵具や墨、和紙などを使用して2週間をかけて制作します。
毎年充実した作品が生まれています。
絵画的な研究だけでなく制作過程の中で物の考え方や計画性、また日本画への気持ちを高める機会となっています。